

取組4 浅羽海岸地域の保全

取組の評価 3.4 概ね順調

< 取組4の基本方針 >
 1 海岸地域全体の保全
 2 海岸浸食対策の推進

3 松枯れ対策の推進

【取組の目的】 海岸浸食対策と沿岸地域の松枯れ対策などを推進し、美しい白砂青松の環境を保全します。

『取組』に係る社会の動向と本市の現状

1 社会の動向

- ◎ 治水や利水及び発電などを目的としたダムが建設され、河川から海岸へ流出する土砂の絶対量が減少したことにより、海岸浸食が全国各地で起こっている。遠州灘沿岸の砂浜は、主に天竜川から運ばれてくる土砂によって形成されているが、天竜川への多数のダムの築造や河床の砂利採取により、また、海岸の土砂の供給量が減少したことや海岸における構造物の建設、漂砂の連続性が遮断されたことによる急激な海岸浸食が進んでいる。
- ◎ 近年の海岸浸食や松枯れ被害によって、危機的な状況に直面しており、この状況を放置すれば、砂浜、砂丘、海岸林は、海岸防護等の機能を失い、津波や高潮などによる大きな被害が予測される。
- ◎ 海岸浸食や松枯れ被害の長期化は、生活の場となっている陸地まで失うことも憂慮されている。

2 本市の現状（主な取組）

- ◎ 平成17年度から21年度までの5年間行った「グリーンウェーブキャンペーン」で植樹した約17,300本の抵抗性クロマツの下草刈りや間伐、枝打ちなどの松林管理を、地域住民をはじめ、市民、企業ボランティアとの協働で実施している。
- ◎ 毎年、7月の海岸愛護月間に合わせ、市民や企業、海岸利用者、浅羽中学校生徒など約1,400人が参加して、砂浜でのペットボトルなどのゴミ収集を行っている。
- ◎ 平成18年に、本市をはじめ遠州灘沿岸の6市で構成する『遠州灘沿岸保全対策促進期成同盟会』を設立し、河川や海岸の管理者である国や県への積極的な要望活動を行っている。その既成同盟会の活動の中で、県が国内初の取り組みとして福田漁港付近で行っているサンドバイパスシステムの早期完成や枯れ松対策への予算確保などを要望活動を行っている。

『取組指標』の分析と評価結果

1 取組指標の評価 【※ 実績値は、各年度末における最新数値】 評価結果の平均値 (A) **4.0**

<評価基準> 4: 達成率 ≥ 100%・前年比伸び率 ≥ 0% 3: 達成率 ≥ 100%・前年比伸び率 < 0% 2: 達成率 < 100%・前年比伸び率 ≥ 0% 1: 達成率 < 100%・前年比伸び率 < 0%

番号	指標名	項目	現状値(計画)	H22	H23	H24	H25	H26	H27
1	浅羽海岸環境保全対策のボランティア参加者数【人】	目標値	-	2,640	2,640	2,730	2,820	2,910	3,000
		実績値	2,900	2,550	2,640				
		達成率 伸び率	- -	96.5 ▲12.0	100.0 3.5				
		評価	-	1	4				
2		目標値							
		実績値							
		達成率 伸び率							
		評価							
3		目標値							
		実績値							
		達成率 伸び率							
		評価							
4		目標値							
		実績値							
		達成率 伸び率							
		評価							

【指標に影響を与えた主な要因】

市民団体により、地元の小学生児童との樹木植樹や堆砂垣の設置、公民館まつりや各種イベントなど海岸を守るための啓発活動を行っている。

2 指標で表すことが困難な成果

遠州灘沿岸保全対策促進期成同盟会は、主に、国や県への要望活動、講演会の開催、情報誌の発行などの活動を行っており、国内初で実施されている「福田漁港・浅羽海岸サンドバイパスシステム」への予算確保等の提言・要望活動を行い、広域での海岸浸食対策に取り組んでいる。

『主要事業』に係る事業評価表の評価結果

1 主要事業の評価

番号	主要事業名	H23事業費【千円】	事業評価表の評価結果		
			有効性	効率性	廃止の影響
1	河川・海岸愛護事業	15,551	4	4	4
2	松くい虫等防除事業	1,126	4	3	4
3	松林保全管理事業（グリーンウェーブ事業）	2,233	4	3	4
4	生活環境保全林草刈事業（県有防災林）	110	4	4	4
5	生活環境保全ゴミ清掃事業	460	4	4	4
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
評価結果の平均値 (B)		3.9	4.0	3.6	4.0

『 取 組 』 の 有 効 性 ・ 必 要 性 ・ 緊 急 性 の 評 価 結 果

1 取組の有効性等の評価 評価結果の平均値 (C) 2.3

番号	評価項目	H22	H23	H24	H25	H26	H27	コメント欄
1	有効性 4. 想定どおりの成果 3. 概ね想定どおりの成果 2. 一定の成果 1. 想定した成果なし	4	3					◎ グリーンウェーブキャンペーンは、市民自らが清掃に参加する形で設立したもので、市民協働の先駆けとしてに存在意義は大きく、自らの海岸であるとの認識が生まれ、愛護意識の向上に有効である。 ◎ 松くい虫等防除事業は、松枯れを抑制し、飛砂や塩害などの防風林機能が向上され有効である。
2	必要性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	4	3					◎ 今後、さらに自らの地域を自らの手で守る海岸愛護思想の高揚を高める取り組みが必要である。 ◎ 市が県有防災林の草刈りやゴミ清掃等の保全をし、防風林機能を維持することで、緊急時の施設利用をしやすくするとともに、景観の維持につながり必要である。
3	緊急性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	3	1					◎ 海岸浸食や松枯れ被害は、危機的な状況に直面しており、今後、砂浜や海岸林は、海岸防護等の機能を失うことが予測され、できるだけ早急に対応する必要がある。 ◎ 海岸浸食は、台風による高波などの災害に対する安全度が低くなっているため、できるだけ早急な対策が必要である。

『 取 組 』 の 総 合 評 価 と 今 後 の 展 開 方 向

1 総合評価 <評価基準> 4 ~ 3.6 : 順調 3.5 ~ 3 : 概ね順調 2.9 ~ 2 : 一部に改善を要する 1.9 ~ 1 : 全体的に改善を要する

取組の評価			コメント欄
3.4	概ね順調		◎ 急激な海岸浸食により、地震による津波や台風による高波などの災害時の安全度が低くなっていることから、浸食が著しい箇所への緊急的な対策が必要である。 ◎ 浅羽海岸地域の環境保全は、行政だけではなく、地域の財産として、地元で管理する意識を高めるため、引き続きボランティアによる草刈り及び地元管理の育成を強化していく。 ◎ 松林の保全については、地域が管理運営することで、協働事業となる。また、地元が管理できる体制づくりを行うことで、松林に対する愛護の心を高め、地域とともに保安全管理を実施していく必要がある。
各評価結果の平均値			
取組指標の評価結果 (A)	主要事業の評価結果 (B)	有効性等の評価結果 (C)	
4.0	3.9	2.3	

2 取組の基本方針別 今後の展開方向

番号	取組の基本方針	H22	H23	H24	H25	H26	H27	今後の展開方向
1	海岸地域全体の保全	継続推進 →	継続推進 →					グリーンウェーブ活動、クリーン作戦とともに、引き続き「白砂青松」の復活を唱え、周辺企業や市民全体へのPRを積極的に行い、全市域からの参加促進を図るとともに、自治会連合会などを通じて共助意識の高揚を図る。
2	海岸浸食対策の推進	拡充 ↷	継続推進 →					環境や漁業活動に配慮し、さらにサンドバイパスの早期完成、防潮堤増強などを積極的に要望していく。
3	松枯れ対策の推進	継続推進 →	継続推進 →					松林を地域の財産として地元で管理する意識を高めるため、ボランティアによる草刈りと地元管理組織の育成強化を推進していく。
4								
5								
6								

【その他留意事項】

松くい虫等の防除事業では、飛砂や塩害などの防止機能をもつ防風林の保護をすることで、地域の保全に繋がるなどの公益性を持っていることから、地域と行政が一体となって事業を推進していく必要がある。